



第10弾

ありがたい姿 探検記



前回のおさらい
先生…牧村洋さん
活動の動機…まちおこしの起爆剤になりたいという想い
アイスクャンドルの始まり…しもかわならではの「しぼれ」にこだわった
まちづくりへの想い…自分が住みたい町を自らつくっていきたくという楽しさを持って取り組むことが大事

先月号は牧村洋さんから、まちおこしのための活動や想いをお聞きしました。今月は、持続可能なアイスクャンドルについて考えていきましょう。

しもかわの文化財

牧村さんたち「コロンブスの卵」は、「幻想的な風景で町民を楽しませたい！」という想いからアイスクャンドルを作り始めま

ただ環境に優しい行動（電気由来のCO2排出を削減してみる）、そしていつもと異なる環境で社会や環境のことについて思いを馳せてみるきっかけになるでしょう。アイスクャンドルもまた、同じような機能を担っていると思いませんか？

私たち（プロジェクト）

アイスクャンドルミュージアムは、皆で一緒に下川の文化を考え、継承するためのイベントともいえるでしょう。楽しみながらまちのヒントが得られるかもしれない。私たちなら、下川の文化を引き継ぎ、新しい価値を生み出せるでしょう。

今月はアイスクャンドルをテーマに、しもかわの冬の文化を守るために必要なことを考えました。今年度から始まった探検記、お付き合いました。来年度も皆さんの気になることをご紹介しますので、引き続きよろしくお願いします。

した。下川町の冬の風物詩として定着していく中で、アイスクャンドルの持つ意味や機能が多岐にわたるようになりました。そんな下川町の文化財ともいえるアイスクャンドルですが、悲しいことに消滅の危機に直面しています。

アイスクャンドルは 持続不可能？

というのもアイスクャンドルは、「しぼれ」がなければ成り立ちません。事実、昨今はアイスクャンドルミュージアム開催の直前に温かい日が続いています。データで確認しても、2月の平均気温は上昇傾向にあります。私たちは「しぼれ」の恩恵を受けていますが、このままいくとアイスクャンドルは持続不可能になってしまう。

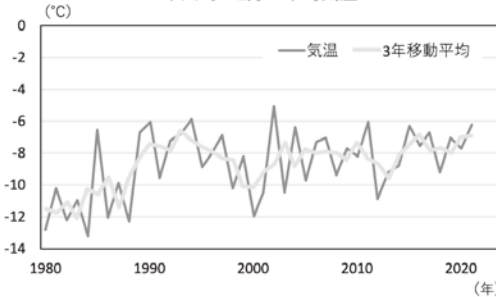
SDGs視点から考えよう

アイスクャンドルは、下

川町の文化財と言っているものの、SDGs11「住み続けられるまちづくり」を「文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」という指標があります。アイスクャンドルの文化を継承するためには、SDGs13「気候変動に具体的な対策を」を立てなければなりません。雪量が多く冬が寒い地域に住んでいる人ほど生活面で温室効果ガスの排出量が大い傾向があります。寒い地域ほど暖房需要が高いため、排出量削減のために、電力を再生可能エネルギーにすることが、節電が思い浮かびますよね。



下川町の2月の平均気温



楽しく解決する

しかし、先月私たちは牧村さんに「まずは自分が楽しむこと」と教わりました。そこで、楽しく気候変動に取り組んでいる事例をいくつかご紹介します。

EARTH HOUR (アースアワー)

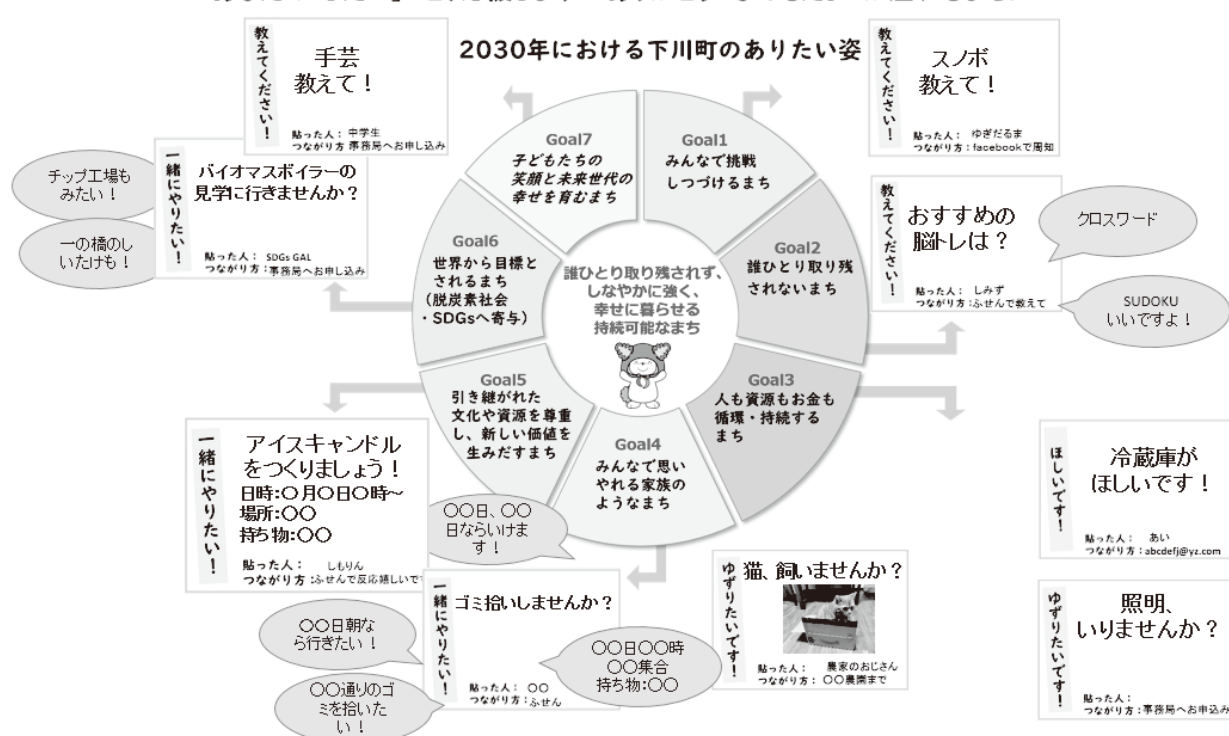
脱炭素型の生活を考えるきっかけとして、世界中で同じ日・同じ時刻に消灯する。地球温暖化防止と環境保全の意思を示す、社会に對して良い影響を与える世界最大の活動です。参加した際のみならず、高層ビルや観覧車が消灯された光景が忘れられません。

100万人のキャンドルナイト「でんきを消して、スローな夜を」を合言葉に、2003年に大地を守る会が呼びかけ、夏至と冬至の夜8時〜10時の2時間、電気を消してロウソクの灯の下、ひとりひとりがゆつくりと考える時間を持つことを提唱しています。

これら2つのイベントは、電気を消すことで少し

なんもだよ掲示板

～あなたの「したい」こと、応援します！ありがとう なんもだよ が溢れるまちに～



コモレビに、皆さんの「したい」を応援する掲示板を設置しました。譲りたいもの、ほしいもの、教えてほしいこと、一緒にやりたいことをマッチングすることを目的としていますので、是非ご活用ください。移動の多い年度末、特に家財をゆずっていただける人はご連絡ください！